

## 「ごみ減量アンケート」にご協力いただいた皆様

昨年の秋、自治会等を通じて皆様にはアンケートのご協力をお願いし、合計781世帯の皆様からご回答をいただきました。ご協力誠にありがとうございます。ご回答を集計し、主な項目について、解説を加えながらご報告いたします。

なお、他の自治会での実施結果も合わせて、2月15日に報告会と今後の取り組みについてご意見をお聞きするワークショップを開催します。多くの皆様のご参加をお待ち申し上げます。

ご参加いただける場合は、当センターまでお申込みください。

令和2年1月

大津市地球温暖化防止活動推進センター

## 「ごみ（生ごみ・プラスチックごみ）」を減らすための実態調査アンケート集計報告

### 【設問群1 生ごみについて】

- ① 最初に、ご家庭から出る生ごみは再利用できる資源であると思われるかについてお尋ねしました。「はい」が70%、「いいえ」が13%、「わからない」が17%でした。
- ② それではご家庭から毎日、どれくらいの量の生ごみが出ているのでしょうか。普通の大きさのお茶碗で、平均（ご回答いただいた世帯）2.54杯となっています。
- ③ 発生した生ごみをどのように処理しておられるのでしょうか。（複数回答可なので合計が100%を超えます。以下の質問も同じ）。「自治体の燃やせるごみとして収集日に出している」世帯が圧倒的に多く90%を占めています。一方、「自分で堆肥化等の処理をしている」が12%あります。12%という数値は生ごみを食資源として循環型社会をつくるという立場からいうと貴重な数字です。大津市では堆肥化機器の購入に補助金を出して、堆肥化を奨励しています。
- ④ ご自分で堆肥化処理をしておられる方にお尋ねしたところ、「生ごみ堆肥の利用効果は素晴らしいと実感している」が90%を占めており、高い満足度がうかがえます。しかし「堆肥化がうまくいかず途中でやめた」とか「高齢化等の理由で堆肥化の余裕がなくなった」が少なからずあります。堆肥化される方はご自分の畑や庭で使用しておられるケースが多いようですが、市民農園等で使用している方も14%ありました。
- ⑤ 逆に、ご自分で堆肥化等の処理をしていない方にお尋ねしたところ、「自治体が収集しているから」が多く77%を占めています。また「自分で処理するのはめんどろ」「自分で処理しても用途がない」が合わせて38%となっています。そこで「用途がない」という方に「地域として堆肥が有効に使われ、また堆肥化の方法が簡単なら協力してもよいか」をお尋ねしたところ「協力してもよい」という方が73%、「エコのためのボランティアと思える程度なら協力してもよい」方が50%を占めています。
- ⑥ 次に、生ごみを焼却することについて、ご意見をお聞きしました。「CO<sub>2</sub>の排出につながるので賛成できない」は14%で、「焼却以外によい方法はないのでやむを得ない」という意見が35%、「焼却時に発生する熱を有効利用できるなら燃やすのがよい」が半数を超える51%を占めています。他方、「生ごみは貴重な資源」と考えておられる方については、「自分で野菜栽培等に利用している」が19%あり、「自治体で費用をかけてでも収集し再利用してほしい」が33%、「休耕地を市民に開放し農作物づくりを推進してほしい」が22%となっています。貴重な資源と考えそれを実践している方が19%おられることは力強いと思われます。さらに、行政も生ごみの活用を進める施策を推進してほしいという希望が20～30%に達している

ことは、潜在的な実践者が少なからず存在することを語っていると思われます。「生ごみは燃やす」という現状をもう一度、検討し直す必要性があると考えてよいでしょう。

- ⑦ 今回の調査から「生ごみを出さないよう調理時に工夫をしている」(33%)「食品ロスを出さないようにしている」(63%)という回答が多いことから「ごみ減量」に対する意識の高さがうかがえますが、その上でなお「出たごみの有効な活用を図る」ことも求められていることが分かります。全国で年間4,300万トンという多量のごみ(うち約3分の1が生ごみ)を削減することは、すべての生活者・事業者が地球環境を守るために努力を継続しなければならないテーマといえます。
- ⑧ 上記の分析を踏まえて一つの仮説を立ててみることにします。生ごみをすべて堆肥化するなどということは現実的ではありません。しかし堆肥化して野菜づくりなどをしてみようかと考えておられる方(潜在実践者)が30%くらいあると想定してみると、それを実現すれば、大津市の燃やせるごみの量×生ごみの比率(30%)×30%(潜在実践者が堆肥化に参加して燃やすことが減る量)で計算すると燃やせるごみとして出される量を9%減らせることになります。燃やすごみを1割減らし、かつ野菜栽培によって健康増進にも役立てる一石二鳥の対策を講じることができます。それだけ温暖化防止にも役立てるはずです。

#### 【設問群2 プラスチックごみについて】

- ① 使用済のペットボトルの廃棄については64%が「自治体の収集日にリサイクルに出して」おり、36%が「スーパー等のリサイクルボックスに入れて」おられます。ただしごく少数ですが「燃やせるごみとして出している」という回答があります。何か特別な事情がない限りペットボトルはリサイクルしたいものです。
- ② ペットボトルをリサイクルに出すときはキャップとラベルを別々にして、それぞれにリサイクルに出すようにしている方が多いですが、はずしたキャップやはがしたラベルを共に「燃やせるごみ」に出している方が20%程度あります。折角別々にしたものでも燃やしてしまわずに、それぞれリサイクルできるように、キャップはキャップとして、ラベルは「プラスチック製容器包装ごみ」として出していただければと思われます。
- ③ 食品トレイやパックについては「自治体の収集日に出す」のと「スーパーなどのボックスに入れる」のが、ほぼ半々というところです。汚れのひどいときは「燃やせるごみ」として出す(62%)のが適切ですが、「水で洗って汚れを落として出す」(74%)は判断がむずかしい場合があります。汚れを落とすのに水道を使いますからその分下水処理に負担をかけます。水をたくさん使うなら「燃やせるごみとして出す」方が適切かも知れません。
- ④ プラスチックは容器包装材としても多く使われています。自治体では「プラスチック製容器包装ごみ」の収集日を設けています。その指定日に出しておられる方が69%を占めていますが、「燃やせるごみの収集日」に出しておられる方が24%もあります。アルミ蒸着したものもあり素材がいろいろなので分別に迷うことがあると思われます。ポイントは「プラマーク」です。「プラマーク」がついているものは「プラスチック製容器包装ごみ」としてリサイクルに回されますが、例えプラスチックであっても「プラマーク」がついていないものは大津市ではリサイクルの対象にはなりませんので、「プラマーク」を確かめて「プラスチック製容器包装ごみ」の収集日に出すようにしてください。
- ⑤ マイクロプラスチックの海洋汚染が話題となっています。生態系を乱すのではないかという危機感を感じている方が60%を超えています。ごみのポイ捨てなどマナーの問題ではありますが、それが河川や海の汚染につながっていくという意識を徹底させる取り組みは不断の継続が必要と思われます。

- ⑥ プラごみが増えている背景には核家族化や働く人が増えているという社会の変化があり、やむを得ないというご意見（30%程度）もありますが、それなればこそさらにごみを減らす工夫が必要と考えられる方が多くなっています（59%）。
- ⑦ リサイクルについては皆さんのご意見を次のように整理することができます。
- ・資源の有効利用のためもっとリサイクルを進めるべきが48%であるのに対して、リサイクルは費用がかかりエネルギーも使うので燃やして熱を利用するのがよいというお考えが14%となっています。
  - ・リサイクルの前提となるごみの分別について、自治体のルールを理解しているが30%に対して、「分別の仕方がよく分からず迷うことがある」が17%あります。大津市では「燃やせるごみ」の中に再資源化が可能な紙ごみやプラ容器包装等のごみが約30%も含まれているということです。「リサイクルには、まずしっかり分別」が大切です。
  - ・もうひとつは、メーカーや販売業者における過剰包装や使い捨ての排除です。「つくる責任」を標榜する事業者も増えてきていますが、さらなる努力を求める声が多く聞かれます（60%）。消費者として商品を選ぶとき「使う責任」を感じて環境にやさしい品物を選ぶことによって事業者の更なる努力を喚起する道があります（エンカル消費）。
  - ・わが国のプラごみのリサイクル率については20%程度とお考えの方が多く56%でした。わが国のリサイクル率は、プラごみを再びプラ製品に生まれ変わらせるリサイクルの率は27%（2017年時点）となっています。プラごみを燃やしたときに得られる熱エネルギーを回収利用するリサイクルが58%となっており、それを加えると日本のプラごみリサイクル率は約86%といわれています。
- ⑧ 最後にごみ減量のために有料化を進めることについてお尋ねしました。賛否両論です。「多少の費用を負担してもよいから環境のため有料化もやむを得ない」が30%、「有料化してもごみが減ることを期待できない」として有料化に賛同できない意見が36%となっています。同時に有料化の効果の「見える化」を求める声が37%ありました。レジ袋の有料化にあたっては、携帯用の買い物袋やレジ袋を持っていくという方が圧倒的に多く、有料でもレジ袋を買うという方はわずか2%でした。
- ⑨ 参考に付記しますと大津市の場合、年間のごみ処理費用は約40億円、市民1人あたり11,000円余りになっています。アンケートでは1人あたりの費用を少な目に考えておられる方が多いようでした。

### 【ご参考】

大津市地球温暖化防止活動推進センターでは宅配「1回で受け取ろう！」キャンペーンを実施しました。アンケート調査の結果、留守のため再配達になることが「時々ある」という世帯が約70%です。再配達のため余計なCO<sub>2</sub>が排出されます。宅配業者も無駄の排除のために工夫をしています。スマホを利用して配達時間を変更するなど、留守をすることが多いご家庭では下記をご参考にぜひ研究してみてください。

～宅配を「1回で受け取る」ための工夫～留守のとき、こんな方法があります～

#### 【受け取れる時間・場所を指定する】

★ヤマト宅急便「LINE利用による」受取日時・場所の変更

<http://www.kuronekoyamato.co.jp/ytc/customer/members/>

★日本郵便「LINEで郵便局」

<https://yu-bin.jp/post/myinfo/>

★佐川急便「WEBトータルサポート」

<https://www.sagawa-exp.co.jp/service/wts/>